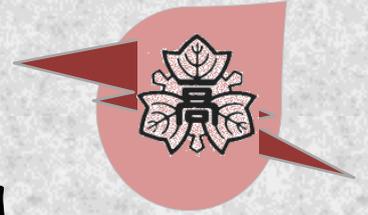


東京冀北



令和3年11月



コロナクライシスで 何を学んだか



東京冀北会
会長
橋本和久
高19回卒

日本のみならず世界を震撼させているコロナウイルスの蔓延状況を鑑み、残念ながら昨年に引き続き本年も「東京冀北会総会・懇親会」を中止とさせて頂きました。役員会にて何とか開催できないかと、何度も検討しましたが、皆様の健康と安全、そして生命を守るために中止するという苦渋の決断をご理解頂きたいと思えます。

今回のコロナクライシスにおける問題は、疾病対策だけでなく社会防衛対応の構築であり、国家としての緊急事態に対応する仕組みと運用能力の欠如、為政者としての方向性の提示及び国民の理解を得るための言葉と努力の不足が指摘され、国家の危機にはロックダウンを可能とする法整備の検討等、様々な課題が議論されました。しかし、「病の治療は医療機関、病の予防は国民一人一人の力」であり、「国家に対して何をしてもらうかではなく、国家に対して何ができるか」(故ケネディ大統領就任演説)だと思えます。我々は、「改めて「自助・共助・公助そして絆」の精神を持たなければならぬ」と学んだと思います。

日本で57年ぶりに「東京2020オリンピック・パラリンピック」が開催されました。私自身人生で二度目の五輪を会場にて観戦できなかったことが少し残念でした。一年延期の末、国民の賛否が分かれた中、無観客でのオリンピック・パラリンピック開催の是非についての議論は続くだろうと言われています。

しかし、緊急事態宣言下で、これほど多くの困難を極めたスポーツの祭典を無事に完遂できたことは意義があったのではないでしょうか。殊にパラリンピックでは障害を乗り越え、多くの人々の支援・応援を受け、自己の可能性に挑み競い合う選手の姿に感動しました。彼らの活躍は、多様性を認め合い、誰もが公正な機会が与えられ、活躍できる共生社会への理解を向上させたのではないのでしょうか。

全てのアスリートが素晴らしいパフォーマンスを見せてくれましたが、何と云っても我が母校出身の杉浦佳子さん(高41回卒)と山本篤さん(高53回卒)の活躍に感動しました。

パラリンピック自転車競技で二冠に輝いた杉浦さんは50歳、金メダリストとしては五輪、パラ、夏冬の男女を通じての最年長記録であり、歴史的偉業と言える活躍でした。また長年パラ陸上界を引っ張って来た山本篤さんの走り幅跳びは4位に入賞し、自己ベストの日本記録を更新しました。



さて当会の運営については、今季をもって森田副会長、山村代表幹事が退任する事になりました。お二人とも約10年にわたり、事務局長・代表幹事としての会の運営に尽力していただきました。そして新たに副会長に杉山文章さん（高29回卒）が加わり、代表幹事には杉森正彦さん（高28回卒）が就任します。

来年こそは、同窓生が相集い、我が母校、郷土への熱い思いを大いに語り合うことが出来ますよう、役員、事務局一同新たな気持ちで取り組んで参ります。どうぞご支援、ご協力下さいませ様よろしくお願い申し上げます。そして皆様方のご自愛を切にお祈りし、ご挨拶いたします。

新任の挨拶



掛川西高校
同窓会長

原田英之

高13回卒

皆さんこんにちは。8月に新しく同窓会長に就任いたしました高13回卒の原田英之と申します。東京冀北会の会報の欄をお借りして、就任の挨拶をさせていただきますことを大変うれしく、光栄に思っております。

私は、静岡県に就職し、57歳の時、急逝した前市長のあとを継いで、故郷

の袋井市長に就任し、今年の4月に引退するまで20年間務めておりました。今は、パソコン教室に通い、料理を習い、スポーツジムで健康の維持に努め、趣味の囲碁を日曜日の午後先生に教えていただき、といった日々を送っております。

掛川西高へは自宅の袋井から通いました。当時は学区の関係で住所の届出し中学からの友人も少なく、少し心細いスタートとなりました。しかし3年間過ごした掛川西高は私にとって、自分の将来のおおよその方向を決めたところであり、さらに卒業後の生活において、「掛西卒」ということで多くのすぐれた先輩や後輩とすぐ馴染みになれたところでもあります。そして「原田、もう少し頑張れよ。」「それくらいいいだろう。」などと、同じ年齢ゆえの程よい按配のアドバイスをいつもくれる同級生がいるところです。旧制高校の寮歌に似た響きを持つ「岩根ごごしき天守台」や「天守の森に草萌えて」の校歌や応援歌は、春、秋の掛西野球部の活躍を楽しみしながら、一人で口ずさんでいます。（なお、第二応援歌は私の在学中にはありませんでした。）

大学が仙台でしたので、若いころは、東京とはあまり縁がなかったのですが、県庁時代に東京事務所長を務めたことを契機に、市長時代を通じて、今日では、在京の様々な方にお世話になっております。それに増して今回東京冀北会の皆様方とこのような形で知り合い

になり、今後ご厚誼をいただくことを大変うれしく思っております。

同窓会は、これからの日本、世界を支えていくために今勉学に励んでいる現役の後輩たちが勉強しやすい環境を整えることや、同窓生同士が交流してお互いの励みとするためのものであると思います。前任の石川会長のように幅広い人脈もなく、力もありませんが、副会長をはじめとする役員の方々が、ちと力を合わせて精いっぱい努めたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いたします。



同窓会誌「冀北」vol.37が発行されました。(2021.8.)
掛川西高校のホームページ
「卒業生の皆様へ」で閲覧できます。

(近況報告) 臨時休業中のコロナ禍での 掛川西高校の教育活動について



掛川西高校
校長

櫻井宏明

こんにちは。

今年もコロナ禍のために、同窓会の

諸行事は、総会をはじめ各支部の行事の中止が相次ぎました。東京冀北会総会には一昨年参加させていただき、皆様と顔を合わせて歓談することができましたが、2年連続の中止となり、大変残念です。また、皆さんにお会いして創立120周年事業の御礼を申し上げることや御挨拶させていただくことなく、来春の定年退職を迎えることになるかと思うと、申し訳なく思っています。

臨時休業を行った昨年とは国の方針が変わり、今年は感染対策をしつつギリギリのところまで学校の教育活動を継続してきました。「葛城祭」は3年生の保護者各家庭1人ずつの入場で実施、高校総体も無観客ですが開催され、3年生には良かったと思います。

野球の東海大会優勝については同窓会報「冀北」で報告したとおりで、校長室にはその優勝旗が置かれています。夏の選手権大会にすべてをかけて臨みましたが、ベスト4に終わりました。ただ、新型コロナウイルスの感染状況が少し落ち着いていた状況であったため、準決勝において伝統の全校応援を行うことができたのは喜ばしいことでした。

葛城祭にしても、野球応援にしても、準備や当日の運営がうまくいかないところが見られました。昨年の中止によってブランクが生まれ、現3年生だけが実際の場を体験している状況だったため、生徒に代々受け継がれてきたものが伝わりにくかったのです。たった

1年のブランクですが、学校の伝統の継承について考えさせられました。

8月26日に2学期始業式を迎えました。静岡県に緊急事態宣言が発出されるほどの感染拡大状況のもと、少数の感染者や濃厚接触者も出ましたが、基本的な感染対策を徹底しているため校内での感染の広がりはなく、授業を継続しています。部活動は、チーム練習や土日の活動は自粛ですが、なんとか活動しています。9月に予定していた体育大会は10月に、10月に予定していた修学旅行は2月に延期しましたが、実施予定です。



2021.5.24 高校野球春季東海大会決勝閉会式後

最後に、掛川西高校は、教育目標に掲げるとおりの「社会に貢献し未来を切り拓く人材」を育てる学校として、これからも挑戦していきます。同窓生の皆様には、母校を末永く御支援いた

だきますようよろしくお願ひし、近況報告といたします。

動物愛護「ねずみ」から

兵藤 哲夫

高10回卒



両親はよほど掛中で学びたかったのであるか？なぜなら出来の良くない息子を掛川西高にいれようとしたのだ。私は袋井中学生であり掛川西高は学区外で受験はできなかったのであるが、いつの間にか、私は袋井市から掛川市に寄宿させられていた。

その当時から掛川西高は偏差値が高く、私などはおよびでなかったのである、このことは当の私が一番分かっていたことだった。受験日まで憂鬱な日々が続いた。レールは敷かれていて、もう逃げられない、もうお終いだ。締め切ってみると定員すれすれ、ほぼ全員入学を許された。両親は喜ぶし、私は苦笑い。「神が無い降りた」のだ。

掛川西高に入り生物部に入部、先輩の指導でねずみを使って「迷路実験」をしようということで、三島市にある「国立遺伝研究所」まで行って、ねずみ(ラット)を3匹譲っていただいた。大型のねずみで白と黒の模様で可愛かった。

その当時の生物部の顧問は「藤田」先生といって「キンゴロウ」というあだ名で呼ばれていた。先生は小笠山に植物採集として部員を何度も連れて行ってくれた。その当時の一つ上に北大の教授になった角皆静男さんがいる。早朝ねずみの世話にいくと、「肥田米作」校長ができる生徒を集めて「特別英語のゼミ」を開いていた。それを横目にみて私はねずみの世話をしていた。羨ましいという感情がこれっぽっちも沸いてこなかった。私は勉強よりねずみが好きだったのだ。

しばらくすると部室が臭いと苦情がでてしまった。私たち飼育班はねずみを連れて引越しをすることになった。校庭の片隅に古い木製の物置があった。ここに目をつけて校長先生に会うことにした。直接談判である。校長先生は岡田嘉須雄先生であった。校長先生は「ねずみ？ お前たちねずみ飼っているの？ 何のために？」と言うとそこから校長先生の思考がとまってしまったようであった。「校長先生、野球部がバットを持って球を追いかけることが良くて、私たちがねずみを飼うことが、なぜだめなんですか」と食い下がった。その結果、先生は「よし使え」と云ってく



「兵藤哲夫アニマル基金」発足と獣医業60年を記念し『動物病院119番感謝』を2021.3.22発行

れて使用許可が出たのである。「バンザイ」ここでも「神が無い降りた」のだ。高校2年の夏休みには「浜松動物園」での飼育係として働かせてもらった。これも楽しかった。

3年生になると進路を決めなければならぬ。私はひそかに獣医師になるうとしていた。ここでの問題は学力が足りないことであった。勇気を出して担任の先生に打ち明けた。先生は体育会系といった感じで体は大きく、声も大きく顔は真っ黒に日焼けしていた、いわゆる「こわもて」で学校でも名が通っていた。「獣医学校に行きたいのですが学校推薦を出してもらえませんか」と頼んでみたが、やはり無理だった。私も分かっていたつもりだった。1週間後私は「加茂五郎作」先生に呼び出された。その後私のことを調査してくれていたようだ。なんと「お前なら立派な獣医になりそうだ。学校推薦は俺がどうにかする。がんばれ」と言ってくれた。そしてその学校推薦状を持って獣医学校の入試に向かった。結果は「合格！」。あの時加茂先生がいなかったら今の私はないと思っている。ここでもまた「神が無い降りた」のだ。大学に入ると馬術部に入った。ねずみから馬に代わったのである。毎日馬

の世話と練習だったが、お陰様で神奈川県を代表して全日本馬術大会、熊本国体、岩手国体とあらゆる馬術大会を楽しんだ。

卒業後、静岡県公の公務員として浜松保健所に勤務したが、私自身の性格が公務員には向いていないと悟り退職、横浜で動物病院を開業している先輩のところへ修行した後、横浜で独立、動物病院を60年続けている。その間、動物愛護、福祉関係に興味を持ち、動物愛護運動に没頭、地方行政や国の環境省中央審議会委員を十数年務め「愛護法の改正」や「ペットフード安全法」「アニマルウェルフェア」と新法にも携わることができた。そしてそれらの働きに対して、小池百合子さんが環境大臣の時、「大臣賞」を受けることができたのだった。今では役職を整理して、「一般財団法人兵藤アニマル基金」を設立し、恵まれない動物たちや理不尽に扱われている動物たちの味方になって活動が続いている。私の人生、掛川西高抜きではとうてい語れない。掛川西高は本当に良い学校であった。ただただ感謝している。そしてまた無理矢理私を掛川西高に入れた両親にも感謝だ。掛川西高高等学校ありがとう。

*1963年横浜市旭区で兵藤動物病院開業。日本動物福祉協会理事・神奈川県動物愛護協会顧問・元中央環境審議会動物愛護部会委員・財団法人「兵藤アニマル基金」を設立し、動物保護福祉の各団体に支援活動を行っている。

「病気をなくす本」



堀川 正

高19回卒

「冀北」に寄稿の機会を頂きありがとうございます。高校卒業以来、薬科大学・製薬会社を経て調剤薬局退職まで50数年の集大成として「病気をなくす本」(アマゾンで発売中)を上梓しましたので内容を紹介させて頂きます。この本は以下の4部構成で「血液循環促進のための運動と三大栄養(タンパク・脂肪・糖)以外にもミネラル(鉄や亜鉛など)を摂る食事によって病気を無くす」という内容です。

【第1部】

散歩、足指足首及び腿上げ運動が「心筋梗塞、脳卒中、メタボ、痛風、水虫、エコノミー症候群、膝痛・腰痛など」を無くす

【第2部】

緑黄色野菜と肉の料理が鉄分を補給し「がん」を無くす



「病気をなくす本」
2021.5.21 第2版

【第3部】

運動励行とエアコン停止及び亜鉛の摂取が「かぜ、インフルエンザ、花粉症、肺炎、COPD、新型コロナウイルス肺炎など」を無くす

【第4部】

抗生物質ペニシリンが原爆と同様、戦時プロジェクトにより作られた薬である事を明らかにする

以上の病気について別な見方をすれば、人間の周囲だけ自然環境を変えた為に発現したとも言えます。具体的には、心筋梗塞や脳卒中等は、車の使用が増え徒歩移動を減らした事による血液循環悪化が原因の可能性がありがんは遺伝子の突然変異(実際は誤解ですが)として作られ、レントゲンや胃カメラなどにより異常発見が促進され増えました。世界的に見れば産業革命が興った頃、栄養不足も重なり結核やスペインかぜが流行しました。かぜや新型コロナウイルス肺炎等も車やエアコンの普及が、運動不足と気温対応能力の退化を招き発病を促進しました。人類進化について科学雑誌「サイエンス」にオレアリーが2013年「ネズミが全哺乳類の先祖である」と発表しましたが、進化を遡れば下図の通りではないかと考えています。

遺伝子↓ウイルス↓菌↓多細胞生物↓植物・動物↓ネズミ↓チンパンジー↓人間

進化のベクトルは、遺伝子が地球の自然環境に合わせて永遠に続く方向に向かっていきますので、人間は自然環境に

合わせる事で健康的に過ごせると考えられます。

以上私の思い込みが多い寄稿文になりましたが、読んでいただきありがとうございます。皆さんの健康と幸せを祈念します。

*「病気をなくす本」の表紙は、一昨年の夏、カナダバンフ近郊の「サンシャイン・ビレッジ・スキー&スノーボード・リゾート」(標高2195m)で撮った写真です。このリゾートの夏は花が咲き乱れます。

人類進化は、地球の自然の中でより良く遺伝子を繋げる方向に向いていますので、自然の一番輝かしい場面として花畑を表紙に選びました。「リゾートで撮った花畑」及びリゾートに行く途中の「ハイウェイ沿いで見た熊」の写真です。地球の自然の素晴らしさを感じて頂けたら嬉しいです。



航空エンジンの開発



鈴木和雄

高20回卒

宇宙航空研究開発機構（JAXA）は、宇宙部門と航空部門で研究開発を担っている機関である。私は主に航空部門で仕事をしてきた。航空部門の主な目的は、我が国の航空産業発展への貢献である。

日本は、戦後7年間にわたり航空機に関わるすべての活動が禁止されたがこの期間、世界ではプロペラ機からジェット機へと航空機の技術革新が急速に進んだ。

その後、技術力の遅れを挽回すべく、我が国の産官学の力を結集して、保有していなかった航空エンジンの最先端技術である高バイパスファンエンジンを独力で開発する、国の大型プロジェクトFJR710（写真が開始された。私が航空宇宙技術研究所（JAXAの航空部門の前身）に入所したのは、このように航空エンジンの研究開発が活発に展開されようとしていた時代である。

研究所は基礎的な研究や試験設備の整備等でプロジェクトを支える役割を担っていた。開発過程の詳細は省くが、エンジンは関係者の地道な努力の積み

重ねにより種々の問題を解決し完成された。

総合試験の一つに、高空条件の空気を吸い込んで性能を確認する地上試験があるが、当時この試験ができる設備が日本にはなかったため、航空エンジンの先進国である英国の設備を借りて試験をした。

この英国でのエンジン運転を通して、



国の大型プロジェクトFJR710

信頼性の高いFJRエンジンを開発した日本の技術力が高く評価され、日英共同のエンジン開発が提案され、RJ500エンジンの開発がスタートした。さらに、この開発に関心を持った米国、ドイツ、イタリアが加わり、5カ国共同開発エンジンv2500に発展してA320などに採用され国際市場で成功をおさめ、日本も主要なRSPとなっている。

FJR710エンジンの開発が、日本の航空エンジン技術を国際共同開発

に参画できる地位に高め、記念すべき本エンジンは、YS11、新幹線などとともに機械遺産に登録されている。

私にとっても、これに続く超音速機用エンジンの開発プロジェクト等いくつかの国のプロジェクトにも参加し、その後は、早大、青学大、名大、神奈川工大の客員教授として、若い人達に得られた知見を伝える機会を得たことは幸いであった。航空技術のさらなる発展を願っている。

パイロットになり

山下晶久

高21回卒

掛川西高を卒業して半世紀以上経ってしまいました。

最近では自宅の2階に上がっても何をしにきたのか忘れてしまうこともありませんが、掛西の頃のことは覚えていることがたくさんあります。

校門前の駄菓子屋さん、掛川駅前の「老虎」のラーメンとか通学の「軽便鉄道」の「駿遠線」等々。授業では「古文の田中先生」が特に面白かったです。

さて卒業後、飛行機なんて見たことなければ乗ったこともなかったのですが、ひよっと立ち寄った本屋さんで航空関係の学校が目に入り、気がつけば旅客機のパイロットになっておりました。お陰様で事故もなく、5種類の



旅客機で40年近く飛ぶことができました。60歳過ぎて地元の航空会社に再就職しました。今は現役ではありませんが、模擬飛行装置で若いパイロットの訓練をしています。50年近い年齢差で世代の相違を感じる今日この頃です。

飛行機の世界も40年前に比べれば大きく変化しています。昭和の頃、国際線の旅客機の操縦室には2人のパイロットと航空機関士、航空士の計4人が乗務していました。その後、月に行ったアポロと同じ航法装置が航空士にとって代わり、コンピュータが航空機関士にとって代わり、現在の旅客機の操縦室にはパイロットの2人が残っています。

また管制通信の世界でも人工衛星を使用したデータ通信が行われ、太平洋上空でも通信は楽になりました。エンジンはジェットエンジンとなり信頼性は飛躍的に向上し、高性能の自動操縦装置も使われています。このように航空の世界でもハイテク化はどんどん進んでいます。

様々な業界で機械化が進んでいます。が、まだまだ人間にしかできないこともあり、旅客機では無人はもちろん、新幹線のように1人になることもハードルはかなり高いでしょう。機械が正しく働いているか見張り、臨機応変な対応を間髪入れず人間がやらなければいけません。

旅客機の話少々。大型機はロシアを除くとアメリカの「ボーイング社」とヨーロッパの「エアバス社」で占められています。この2社は操縦関係のコンピュータの設計思想に大分違いがあります。

難しい話はいろいろありますが簡単に言うと、「ボーイング」は最終的にはパイロットの操作がコンピュータに優先する設計です。「エアバス」は最終的にコンピュータがパイロットより優先します。操縦の方法もボーイングは操縦輪、エアバスはゲーム機のようなスティックです。

違いはあれど、どちらも良い飛行機です。安心してお乗りください。

時事川柳と私

後藤 克好

高21回卒



私が時事川柳に関わることになったきっかけは、30代の終わりに体調を崩した時、主治医から、「何か趣味を持たないで仕事一辺倒では行き詰まってしまうですよ」という忠告を受けたことによりです。この時、学生の頃から興味を持っていた「読売新聞」の「時事川柳」はどうかという思いに至りました。生来疑い深く、物事を斜に見る傾向の私にはびつたりかもしれないと思っただけです。私がこのような性格を形成するのには、子供の頃のある経験がベースにあったのかも知れません。それは茶産地「牧之原」に生まれた私が「茶の実拾い」で小遣い稼ぎをしていた時のこと、近所のおばあさんのところに持って行くと、「一升幾ら」で買い取ってくれるのですが、マスで「摺り切り」ではなく、「山盛り」にされたのです。大人って何と狡猾いものだと

子供心に思いました。些細な体験かも知れませんが、私には今でも忘れられません。しつこく、何かを続ける性格の形成にも繋がったかも知れません。

さて、時事川柳です

が、通常の笑いを誘うような川柳とは違い、基本はその日その時の出来事の最先端を切り取ることにあります。その最大の欠点は、いわば一過性の存在だということです。しかし、手前味噌ながら次のような句はいまでも通用するのではないのでしょうか。

- ・年金という人參を追い掛ける (1993年)
- ・人口が地球を食べる音がする (1999年)
- ・冷戦の方が平和に見えて来る (2002年)
- ・政治家にあつてはならぬ記憶力 (2004年)

また、こんなこともありました。ニュージーランドのクライストチャーチで地震が発生し、日本人にも犠牲者が出ましたが、その時、次のような句を投句していました。東日本大震災の約2週間前のことです。いずれもボツでしたが背筋が寒くなったことを覚えて

- ・仙台の辺りかクライストチャーチ
- ・要注意ニュージーランド似の日本
- ・帰国後も地震に襲われる悪夢

よみうり時事川柳

一人だけコロナに明かり見える人
目に見えずとも感触で知るメダル
14歳蹴って掴んだ銀メダル
チャリーへのピートが石を転がした
異物有り腕に刺せず水をさす
アファンも公助受けるにゃ自助が要る

流山	東山	富山	東京	鶴岡
猫山	後藤	山豆	京馬	放言
猫山	克彦	鉄砲	居士	居士

●片山一弘選 2021 8.30

読売新聞「時事川柳」

2021年8月段階で、通算1201句まで入選を積み上げることが出来ました。最近では何とか月5句ほどの入選を維持出来ているのですが、そのためには毎日約30句がノルマです。計算上は、この30年で20万句ほどがボツになったことになりました。

私も70代に入りましたが、今後、ボケ防止のためにも時代の先端に食らいついていきたいと思っています。時事を追い掛けて気が付いたら百歳とでもなっていたら理想的です。

*写真は「時事川柳の1000句掲載を記念」して自費出版した句集の完成と誕生日を友人達がお祝いをしてくれた時のものです。

掛川西高校の思い出



横山 八千代

高21回卒

ペンネーム
奈波 はるか

大学卒業後、英語の高校教員になって二つ目の赴任校が母校の西高だった。恩師たちが同僚になった。女子の高校教員はまだ少なかった時代で、担任をやったとき、「県下の進学校で女子で担任やるのはあんたが初めてじゃないか」といわれた。

生徒時代、修学旅行が高原教室で、我々のときが第一回。教員時代に、最後の高原教室の引率をした。黒部溪谷をバスで走っていると、幸運にも紅葉のピークと重なり、しかも天候にも恵まれ、山岳道路の両側が紅葉の真っ盛り。全山黄色と赤。生徒たちの半分は車中で眠っていたが、起きている生徒はみんな感激していた。そのとき彼らが書いた感想文は、まだ捨てないでわが家にある。

自分の生徒時代は楽しい記憶はあまりない。その反動か、教員時代は生徒と一緒に遊びまくった。規格外の教員だったらしく、何をやるかわからないというので、副担にはかつての恩師や、



村松岐夫先生を囲み同窓生達と

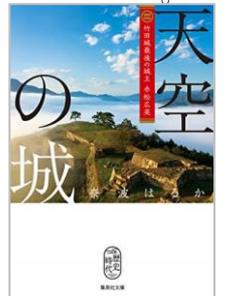
厳しい先生が付けてらされた。監視するためだと聞いた。が、どこ吹く風である。

女子生徒と一緒にチアガールはやるし、学園祭では生徒の制服を着てロックバンドの中に紛れてステージに立ったし。当時、「八千代先生」と呼ばれていて、今もライターのグループ名は『八千代組』である。六年間西高に奉職して、退職した。退職など親が許さないので、「京大合格」という理由をつけた。二回目の大学生は、ガキのときに比べると実には楽しかった。授業料免除学生になれたので、博士後期課程までフルに行った。入学金、授業料無料。京大時代、西高卒の生徒の宴会があって、奈良女や阪大からも京都に集まって、楽しかった。中心人物は、当時、法学部教授だった村松岐夫先生で、我々の大先輩。コンパの二次会で、祇園のサブに連れて行っていただいたこともある。先日先生に電話したら、「あんた、いくつになった」とおっしゃるから、「七十です」といったら、「若いじゃん」といわれてしまった。最近、若いといわれたことはなかったの、そうか、



2019 八千代組 同窓会

若いのか、と感動した。コロナ禍前年、かつて担任をした西高教員たちが掛川で合同クラス会を開いてくれた。数十人集まってくれ、みんな立派になっていた。また会えるだろうか。



*奈波はるか 代表作

『天空の城・竹田城最後の城主』
『少年舞妓千代菊がゆく54巻』
『幕末舞妓、なみ香の秘密』

天守台登り



赤堀宏幸
高29回卒

東海道新幹線に乗るたび、再建された掛川城の天守閣が見える。1994年の再建後、麓で練習に励む掛西野球部にとって甲子園への道は遠くなったのかどうか、と聞かれたことを思い出すことがある。なぜなら、1977年3月卒の私たちにとっては、『天守台』は観光名所などではなく、グラウンドが使えないときの足腰の鍛錬の場所だったからだ。高さも何段だったかも覚えていないが、「石段20本」とかのメ

ニューは、何十年経っても忘れない。強く思い出に残るのは、「マラソン大会」の時のこと。野球部の1年生部員には、先輩2年生から課される「天守台登り」のノルマがあったからでもある。今考えれば「なんで？」という疑問が起るが、当時は当たり前のことのように従っていた。私たちの代は、「個人で学年31位以下は、罰として天守台10本、1年生部員で10位以内が5人以上いなければ、全員が天守台10本」であり、1年生当時の結果は、惜しくも10位以内が確か3人であった。タイムレース（学年別に走り順位を決定し、総合順位も出す）で全校1位だった私にも、優勝の褒美などもなく、その日は走った後に、10本が課され、こなしただけを覚えていた。（私は3年連続学年1位で、1・2年は連続全校1位だった。）
では、野球部OB全員が天守台を嫌いかといえば、「高校野球100年」の時に、1964年夏に甲子園に出た先輩から、「天守台は天国だった」という話も耳にした。練習中に水を飲んでいけない時代、野手は周辺の「田んぼの水なめ」までしたが、投手陣は「天守台を登る」と断って、掛川公園の水道にありつき不自由しなかったという「投楽野獄」の話だった。
現在も私は、「サンケイスポーツ」で高校野球、大学野球などの取材をしており、経歴に『静岡・掛川西高時代は、野球部副将・遊撃手として春季県大会優勝』と記させていただいている。た

だ、選抜に出た1年先輩、夏の甲子園に出た1年後輩と比べ、記憶に残るような活躍はなく、マラソン大会のときに名前が知られるぐらいだった。天守台の思い出を綴ったが、恩師に叱られ、先輩に怒鳴られ、同期に励まされ、3年夏を終えられたことを、鬼籍に入られてしまった中道監督、清水部長、増田副部長はじめ、多くの方々



「天守台登り」先頭が筆者

甲子園のご縁



岡田健治

高30回卒

高校時代は3年の夏まで勉強そつちのけで野球に没頭しました。2年先輩のチームが春の選抜甲子園で「ベスト8」に入る大活躍もあって、夢だった甲子園が少し身近な目標に変わり、私も掛西への入学を決めました。最後の夏は初戦から1点差勝利、準決勝で

延長18回引分け再試合、決勝は「1対0」といった苦戦の連続でしたが、何とか「13年ぶり3回目」の夏の甲子園出場を決めました。振り返ると幸運の連続だったとしか言いようがありません。甲子園の初戦は、初日の第2試合、相手は初出場茨城県代表の「取手二高」です。結果は「1対4」、運は予選で尽き、あつけない敗戦でした。その時の相手監督が後に「常総学院」の監督として甲子園通算40勝をあげ、「木内マジック」と称された名将「木内幸男監督」です。当時はやはり悔しさだけが残りましたが、この敗戦が後に福をもたらすことになりました。さて、ここから私の常磐地域との繋がりが始まります。同じく野球に明け暮れた大学卒業後に「東京電力」に入社（S58年）し、最初の赴任地が茨城県の「日立営業所」でここに3年間勤務。その後の水戸勤務も含め通算6年以上は茨城県内で過ごしたことになります。（ちなみに静岡県内の勤務は一度もありません。）また、東京本社勤務時も「東海原子力発電所」等との取引業務を担当し、常磐線で頻繁に往来するなど、甲子園での対戦までは縁もゆかりもなかった茨城県とは不思議なご縁が続くことになりました。二度目の茨城赴任時は営業の責任者だったこともあり、「木内監督に甲子園1勝目をプレゼントした者です」というセリフが大変重宝し、初対面の方でも一気に打ち解けることができました。あの時勝っていたら、とても営業トークに

持ち出すわけにはいきません。常磐エリアという点では福島県とも会社生活のなかで運命的なご縁をいただきました。2000年問題の際は原子力事業の広報マンとして2年間、そして2011年に起こしてしまった原子力事故後には賠償業務を担当した後、東電社員全員が福島で復興のお手伝いをする組織の責任者として、東電在籍の最後2年間を福島で過ごし、地域の皆さまに大変お世話になりました。私も還暦を過ぎ第二の人生にはいろいろありました。これまでいただいた様々なご縁（もちろん本会のご縁も）、出会いに感謝するとともに、これからもライフワークとして微力ながら福島復興のお手伝いをしていきたいと思っています。

掛川西高校の同窓生



竹島規雄

高31回卒

私は高校第31回に卒業をいたしました。学校を卒業して今年で43年になります。

私は高校時代野球部に所属し、高校卒業後は大学でも野球部に所属しておりました。

そして就職をし、何件かの転職をし、現在に至っております。

大学に入学してから掛川に帰るのは年にお盆か、お正月という生活を過ごしてまいりました。しかしながら、今から6年前、父親の認知症の発症を機に毎週金曜の夜から日曜日の夜にかけて掛川に帰るようになりました。掛川の駅前には私の高校時代の野球部の同窓生である最上君が経営している居酒屋があります。毎週掛川に通うようになってからは最上君のお店に通うようになりました。お店に顔を出せば「よく来た」と歓迎してくれ、更に同級生に電話をし、「竹島が帰ってきたから」と言ってみんなを誘ってくれプチ同窓会のような雰囲気になりました。何年も掛川に帰ってもいない私を毎週暖かく出迎えてくれ、楽しくお酒を飲ませていただき、感謝・感謝です。高校時代の思い出話や、同級生が今どこで頑張っているのかの情報がすぐわかります。私どもの年代また各世代の方もそうであろうと思いますが、掛西の卒業生は日本全国におり、活躍をされているようです。掛川に帰ればそんな情報がすぐにわかります。それほど掛西の同窓生は結び付きが強いのではないのでしょうか。高校に入学すればすぐに応援練習をし、校歌・応援歌は絶対に覚えなければならず、炎天下の元、野球部の応援にはいかなければならず、本当に団結を重んじ、学校が一つになる高校時代でしたからこそ、何年経過してもこの

結びつきがあるのではないかと考えます。他校では自分の学校の校歌すらも知らない方も多いのではないのでしょうか。

そんな中、今年は数十年ぶりに甲子園への期待が高まり、県予選では同窓生がラインを通じて実況中継をしてくれましたが、惜しくもベスト4で敗退してしまいました。なかなか掛西はベスト4の壁を破れません。しかし、今年出場してもコロナ禍の中でもあり、思い切り応援することはできなかったと思います。

野球部には更なる活躍を期待し、是非甲子園に出場していただき、大きな声で応援歌を歌い、更には甲子園のセンターポールに「岩根こころしき天守台」の校歌を歌いながら校旗の掲揚してもらいたいものです。

同窓生の皆様、甲子園でお会いしましょう。それまで、健康には十分お気を付けてください。

大谷翔平選手の活躍に感謝



福田 豊

高33回卒

今年、新たなルーチンワークができました。毎朝「エンゼルス大谷翔平選手」の速報をすることです。実は今日

(9月11日)もホームランを打ちました。44号! この原稿が掲載された時に、日本人初のホームラン王になっているといいですね!

私は「日刊スポーツ新聞社」に勤務しています。野球記者、デスクなどを経て今は新聞ではなく「デジタル編集部」というところで「ニッカンスポーツコム」というサイトの編集をしています。毎朝6時過ぎに出社。現場記者から送られてくる速報記事にタイトル



や写真も付けてネットにアップします。時には自分で記事を書くこともあります。大谷選手の試合は

時差の関係で、日本時間の午前中に行われます。テレビやネット中継を見ながら大谷選手がホームランを打った瞬間に、用意していた記事をアップしています。ライブ各社も大谷選手の速報をわけているので、1秒たりとも遅れるわけにはいきません。

大谷選手の記事は注目度が高く「ニッカンコム」でも人気コンテンツの一

つ。大活躍した日は彼の記事だけで全体の3分の1のPV(ページビュー(閲覧数))を稼ぐこともあります。「大谷くん、今日も打ったね」が朝のあいさつになっているとも聞きます。コロナ禍で暗いニュースが多い中、大谷選手の大活躍には感謝しかありません。

ネット速報とは別にもう一つ、大きな仕事があります。ツイッターでも大谷選手の打席結果などを速報します。私のアカウント名は「ふくださん」(@fukudasun)。おかげさまで、フォロワー数は19万人近くまで増えました。

10年ほど前に会社の命令で始めました。「野球のことを自由につぶやいてください」とタブレット端末を渡され、高校野球やプロ野球の試合経過などをツイートしています。西高の試合速報をしたこともあります。「掛川西高 甲子園出場!」とツイートできる日を楽しみにしています。

西高時代に出会った「風姿花伝」



小林 靖

高35回卒

どこの書店だったのだろうか。連雀だったのか、それとももつと駅に近かつ



たのか。40年近く経った今となっては思い出せないのですが、西高からの帰途の書店に立ち寄ったときに、一冊の本を手に入れました。

理系志望のクラスに在籍していた私は、「風姿花伝」という古典を買いました。それは、理系の主な受験科目以外にも興味を持ちたいという単純な好奇心からでした。古文そのもので読もうと、岩波文庫の当時はパラフィン紙のカバーの薄い文庫本を手に入れました。一度通読しました。文章自体は読み易かったのですが、初心、花の繰り返しという表面的な印象に留まったのと、同世代の「十七、八より」の部分を再度読み返しただけで、放り出してしまいました。「世阿弥」が何を言わんとしているのか、高校生の私にはほとんど理解できなかったのです。

それから何年か経ち、大学卒業後、旧建設省にお世話になることになりました。一年目に諸先輩から「3」に注意しなさいと、今も肝に銘じているアドバイスをいただきました。1件目、2件目は緊張感を持っていましたが、3件目は慣れが出てくる。3日目、3か月目、3年目もわかり、です。

「初心」か、と「風姿花伝」を買って、まず「二十四、五」の部分を読んでみました。7、8歳から稽古して、この頃が初心の花、まだまだ精進

しなさい。3件目で担当の専門家になつたなんて言えたものではありません。プライベートでは家庭を、ビジネスでは仕事と部下をマネジメントするようになる、益々参考書的に読み直すようになります。「風姿花伝」の本旨を理解しているかは心許ないのですが、様々な場面での心構えの気付きを与えてもらっています。心理学者、脳科学者、物理学者、歴史学者の本などオン・オフともにマネジメントの参考になりますが、読む本の座標軸の中心に「風姿花伝」がある気がします。

段々、味が出てきて、これからも、自分なりの対応方法を考え出すために、何度も読み返していくことでしょう。そして、そこに一冊の本を手にする無知で無邪気な高校時代を思い浮かべながら、初心に返るおじさん（おじいさん？）がいます。

*東日本高速道路株式会社取締役兼
常務執行役員経営企画本部長

和太鼓



梅澤 千都子

(旧姓 井野)

高37回卒

私は横浜に長年住んでいます。今回は、私と縁の深い和太鼓との経緯

を書かせて頂くと思っています。「和太鼓」を始めたのは、20歳になるかならないかのまだ学生だった頃。性に合っていたのでしよう：もう随分長いお付き合いになります。



思います。つきり打って、汗を流した後の爽快の爽快感。気持ちとパワーを集めて一点に集中し、打込んだ時にのみ出せる抜けた和太鼓の音。背筋を伸ばして体全体を使って、思い通りのパフォーマンスができた時の気持ちよさ。体に響く和太鼓の音色の心地よさ。パフォーマンスを観て聴いた方が、何かを受け取って下さった時の喜び。：私自身が和太鼓に惹かれた要素を、色々と思いつきながら書き連ねてみました。

リズムを感じてリズムにのって体を動かす♪ 音を楽しむ♪ という行為自体が、単純に人間にとつて楽しいものであるようです。

打楽器というのは、人類が初めて触れた音楽だと言われていますし、(棍棒や石を打ち鳴らして音を出すなど)「和太鼓」の音というのはお母さんのお腹の中で誰もが10ヶ月の間、聞いてい

た鼓動にとっても似ているのだそうです。だから、和太鼓の音色に触れてみた時に

「どこか懐かしい気持ちになった」「体に響く感じに感動した」というようなコメントを口にされる方が多くいらつしやるのでしようね。

私の20代は「和太鼓」に熱中して過ごしていました。

同世代の女の子達がブランド物を買って、海外旅行を楽しんでいる傍ら、私は、時間が出来れば「和太鼓」の稽古に勤しみ、ボーナスの度に「和太鼓」を買っていました。

週5日フルタイムで働きながら、平日の夜は「和太鼓」を教える事に使い、土日や祝日は、稽古をするか演奏活動に充てていました。

全力疾走の20代。こうしてこの文章を書きながら振り返ってみると、どこからあんなエネルギーが湧いてきたのだろう？と我ながら不思議です。

……にしても、最初、何故そんなに「和太鼓」に惹かれたのだろうか？と考えてみた事があったのですが、「掛川祭」の「ドン・ドンドン」の太鼓のリズムがすごく好きだったこと、心が躍った記憶が思い出され……

ルーツはそこにあつたようです。

紆余曲折を経て、今も横浜で、こじんまりと教室を続けています。

最近、大きく広がってゆくという方向よりも、「自分もそこに集う人達も良いエネルギーを受けられるような、そんな場作りをしたい」と考えるように

なりました。

今はコロナで教室はお休みです。一日も早く、また人々が集まりスポーツや趣味を楽しみ日常生活が戻ってきますように、と切に願っています。

繋がりを大切に



松浦 早希

高55回卒

私は卒業後、保健師・看護師資格を取得、病院で臨床経験を積み、がん化学療法看護認定看護師・不妊カウンセラーとして働きながら、チーム医療やコーチングに取り組みました。色々な経験の中から、臨床現場と教育の架け橋になりたいと思い、現在は大学教員をしております。

まずは、高校時代から現在に至るまでの友人たちとの繋がりについて記していこうと思います。

2000年4月、創立100周年の記念の年に入學し、多くの時間を部活動(男子バスケットボール部のマネージャー)や友人とのお喋りに費やした高校時代。卒業後は地元掛川を離れ、東京で働いておりますが、掛川の同級生とも連絡を取り合い、交流が続いています。

数年前には、都内近郊の掛西同級生を集めて、鯛しゃぶ会やBBQを行いました。



「掛西同級生」



年5月には学校閉鎖となった子供たちを対象にオンラインで「子供コロナ勉強会」を開催したり、CancerX

という団体を通じて、がん患者向けの発信をしたり、今年8月は保健所にコロナ対応支援業務に行ったりと協力できることを地道に行っています。そういった活動を通じて、いろいろな新しい出会いにも恵まれ、自分自身の知見も広がっていることを実感しています。今後もしつひとつの繋がりを大切に、頂いたご縁を次にも繋げられるように、周りに感謝しながら、私らしく日々を過ごしていきたいと思っています。

皆、それぞれのフィールドで活躍していて、とても刺激を受けました。また、高校当時は直接関わりがなかった同級生同士でも、すんなり溶け込める不思議な力を感じました。あつという間にその時代に戻してくれるような感覚と、今のことも緊張らずに話せる関係性は、掛西で同じ時間を共有し、同じ思い出を語り合えるからこそなのかもしれません。



「掛西同級生2」



30才



黒田 浩幸
高62回卒

掛西を卒業して12年、干支も一周するタイミング、30歳になりました。高校時代に想像していた30歳像は、漠然としたイメージながらも仕事に家庭に充実しているものでした。

もう大人のつもりだった高校時代、適度に勉強しながら、剣道部で汗を流していたあの頃、高校時代の中心はやはり部活動でした。顧問の先生が稽古に来るのかどうか、今日の練習は軽めのウエイトトレーニングだけなのか、そんなことに一喜一憂していました。受験も終わり、東京での一人暮らし。引っ越しを手伝ってくれた両親を乗せたハイエースを見送る私は、ひとりぼっちの寂しさで胸がいっぱいになりました。

勉強そっちのけで、バイトにサークルに飲み会に明け暮れた大学生時代。リクルートスーツに身を包み、緊張しながら臨んだ就職活動。右も左もわからず、たくさん怒られた新入社員時代。特別なことはないけれど、ひとつずつ階段を登ってきました。30歳を迎え、まだまだ若いつもりでしたが、多くの変化がありました。

前日に食べたとんかつに胸焼けするようになり、筋肉痛は遅れて来るように、財布の中には高校時代には考えられないほど病院の診察券が増え、ひしひしと老いを感じています。

また、今年2月に結婚をし、新卒から働いていた会社から転職、そして来春4月には子どもが生まれる予定です。これからのことに不安はもちろんありますが、人生の節目を経験し、少しずつですが大人になれているのかなと実感しています。

環境の変化がある中で、高校時代の部活仲間とは今も変わらず会っています。その



掛西同級生達と

「真面目に」「しっかり」「もう変わらな関係性に、気持ちにはいつ代のも高校時代のあの頃に戻ってしまいます。

う30なんだから」そんなのぜんぶ忘れさせてくれるような存在で、私の大事な拠り所です。これから先、40歳、50歳、何歳になっても帰ってこられる、立ち寄れる場所として大切にしていきたいと思っています。

◆川合睦 中44回卒

本總會・懇親会をコロナの影響が少ない月(例・10・11・1・2月)に、来年から変更されてはいかがですか？

◆浅井廣幸 高2回卒

90歳！

◆伊藤哲夫 高2回卒

2年前、磐田市から当地へ越してきたばかりで、漸く落ち着いて来た所です。京浜地区に居る同級生の動向、住所などを知りたい。

◆後藤陽一 高4回卒

今年の誕生日を迎え、88歳になりました。元気でいますが、歩行に不自由で外出が困難です。残念ですが暫くは療養に専念致します。皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

◆川島次郎 高5回卒

足腰がすっかり弱り、ベッドの乗り降りに終始する毎日です。諸兄姉の健康を祈ります。

◆塩崎武良 高7回卒

学校、会社、趣味の会など、いろいろありますが、この会はよくやっています。と思えます。体調がよくなりませんので、このところ参加していませんが、この会の発展を願っています。

◆斎藤剛志 高7回卒

寄る年波には勝てず、ソフトボールは一昨年いっぱい退会し、以来遅まきながら陶芸に取り組んでいます。湯呑茶碗などをポチポチ作って楽しんでます。

◆川村弘史 高8回卒

コロナ禍でボランティア活動や趣味

活動が封じられ、巣籠生活を余儀なくされていますが、元気に過ごしています。東京パラリンピックでの杉浦、山本さんの活躍は見事で心踊らされました。夏の高校野球もあと一歩で甲子園に行けませんでした。各々の途中経過をパソコンで流して頂き、うれしかったです。これからも宜しくお願いします。

◆小杉慎一 高8回卒

全国のNHKラジオ深夜便リスナーの皆さんに向け、パラリンピック競技の楽しみ方を伝え、自らも走り幅跳び4位入賞の「山本篤」さん。掛西卒41期生「杉浦佳子」さんの庄巻の自転車ロードレース二種目W金メダル。正にパラリンピック、バンザイの今夏でした。私達に生きる勇気を与えてくれました。

◆佐野角夫 高8回卒

社団・財団の役員やソニープの社友を続けています。今後の連絡はメールに切り替えては。

◆常盤敏時 高10回卒

健康で元気に生活しています。東京冀北会の益々の発展を念じています。

◆兵藤哲夫 高10回卒

袋井中学↓掛川西高↓麻布大学獣医学部↓獣医師↓静岡県職員↓浜松保健所勤務↓退職 横浜にて動物病院開設 60年良き時代でした。82歳。

◆横山隆治 高10回卒

役員、事務局の皆様ご苦勞様です。常勤監査の仕事の他に、ゴルフは毎月ラウンドしています。

◆野末榮一 高11回卒

コロナ禍の役員ご苦勞様です。断捨離が高じて2021年4月に転居しました。「人生100年」は耳障りです。

◆石川嘉延 高11回卒

今年の11月24日の小生の誕生日で満81歳に相成ります。また、今年の夏の総会(コロナ感染症拡大のため、開催中止となりました)をもって、掛西同窓会長を退任致しました。東京冀北会も今年度をもって退会させて頂きたく、宜しくお願い致します。

◆藤田敏 高11回卒

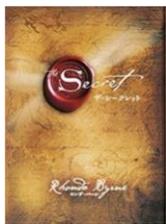
傘寿になり、ゴルフのスコアもガタ落ち。90台を切れない状態ですが、コロナ感染予防のためには体力免疫力をアップさせ、生命力の強化が大事と思ひ、毎日1万歩のジョギングと筋トレ、ゴルフ練習場で精を出しています。コロナ禍の終息を祈る日々です。

◆鈴木建雄 高12回卒

ペンネーム「渋谷健」写真家として2003年から、花の写真集「花つれづれ」を販売しております。2022年版はアマゾン等で購入できます。

◆山川俊宏 高12回卒

コロナにかかり大変でしたが、学ぶところも多かったです。でもコロナにかからないよう気を付けて下さい。本を書いたり、翻訳の仕事をしています。精神世界の分野です。「アルケミスト」「前世療法」「ザ・シークレット」など、読んでみてください。面白い世界です。



◆海野健一 高13回卒

70歳を過ぎてから思い立ってスペイン語の勉強を始めました。動機は単純ボケ防止とスペイン語圏への旅行。初めの3〜4年は順調、メキシコへの旅行時にカタコトが通用して、楽しかったものです。しかし、その後は御多分に洩れず、記憶力の減退に直面し悪戦苦闘。数年積み上げたものも崩壊の危機です。今は文法より会話に切り替えて何とかしがついていきます。

◆神谷省吾 高13回卒

去る8月、満79歳を無事に迎えました。故郷にもこの2年間行けておりません。コロナが更に減少すること、母校の一層の発展を祈っております。

◆糸田歌 高13回卒

コロナ禍にもめげず、頑張ってください。早く従来の生活に：願っております。

◆秋野文子 高14回卒

8月に読売新聞「よみうり五行歌」に私の句が入りました。右利きなのに右手マヒ見いつけた わたしの生きがい左手で書く 五行歌の世界

◆大石武郎 高14回卒

①会報の電子版を作り、メールアドレスを持っていての会員に配信することで、印刷代・郵送料の軽減と発送の手間を省けます。電子版には動画を入れることも可能です。
②総会終了後の懇親会で、在校時の部活動ごとのエリアを作って、卒業年度を超えた交流を計ったら面白いと思ひますが、如何でしょうか。

◆小関睦司 高14回卒

コロナ禍の為に年一度の集いもならずコロナが収まって、また皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

◆黒田 修

高14回卒
東京冀北会運営ご苦労様です。今後とも宜しくお願い申し上げます。

追伸 今回会員名簿を受領致しました。立派な名簿で参照が楽しみです。

◆池田 孝子

高14回卒
コロナ禍で皆様とお会いする機会がなくなり淋しいです。委員の皆様も健康にお気をつけて頑張ってください。

◆中山 紀子

高14回卒
皆さまとお会いする機会がなく、とても残念です。パラリンピックで西高の後輩たちが頑張ってくれたので、とても嬉しく思っています。

◆橋山 高昭

高14回卒
コロナ禍にて巣籠中です。近くのコミュニティセンターで囲碁を週1回打っています。オンラインによるセミナー、講義、囲碁会、古文書・歴史勉強会およびオンラインクラス会・飲み会などで時間つぶしをやっていきます。

◆和田 三弘

高14回卒
わずかな仕事と地域のボランティアやゴルフなどの遊びで楽しんでいきます。

◆清水 康二

高15回卒
幹事の皆様ご苦労様です。

◆竹原 繁男

高16回卒
コロナ禍元気に過ごしております。意見ですが、東京冀北会の会費を毎年振り込まず、引き落とし方法はできないでしょうか？ 自動引き落としがありましたがいかがですか？

◆鈴木 良彦

高18回卒
「緊急事態宣言」下でも屋外のテニスで運動不足とストレスを解消し、元気に暮らしています。日々の生活を見直し、「コロナ」感染下でも元気に暮らしている「新しい生活様式」を見つけ、具体

化しようと思っております。

◆千葉 東洋

高18回卒
このコロナ禍は、ひたすら走り続けてきた私の人生に立ち止まる時間をくれました。仕事の無くなったこの期間、愛車アルファードを運転し、北は青森の下北半島、南は四国、九州へと3万5千キロの車中泊超ロングドライブを楽しんでいます。

◆加藤 徹

高19回卒
コロナに振り回されています。

◆鈴木 静夫

高19回卒
コロナ禍で巣ごもり状態です。毎日1万歩目標のウォーキングで、体力保持に取り組んでいます。

◆富永 二郎

高19回卒
義母102歳を先日見送り、家族全員力が抜けて、ボーとしているところですが、これから妻と旅行にでも行きたいのですが、時期が時期だけに困っています。

◆橋本 和久

高19回卒
コロナ禍により2年間総会ができないことは、誠に残念です。来年は開催できることを信じ、3年間の思いを集結し、大いなる総会を開催したいと思えます。会員のご協力を願います。

◆武田 陽子

高20回卒
深谷市にて主に資産税、相続税申告税務を行っております。昭和、平成、令和と長期に亘って、仕事をさせていただきました。

◆寺澤 康夫

高20回卒
41回卒の杉浦佳子氏のパラリンピックでの2冠達成の快挙に我を忘れて快哉を叫びました。掛川西高を強く深く感じさせてくれました。誇らしいことでもあります。近い将来に同窓会の開催が叶い、快挙を喜び、感涙にむせぶ日が来ますように。コロナに負けず、日々暮らせ

ますように皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

◆山本 文昭

高20回卒
早くコロナが無くなることを祈ります。

◆伊与部 みち子

高21回卒
勤務先の学校は定年がないので、細々ながら日本語を教え続けています。日本人が英語を学ぶのも大切ですが、外国人に日本語を学んでもらうことも日本人にとつては有益だと考えています。外国人観光客も留学生も大挙して来日する日が再び来ることを心から願っています。

◆常世 佳江

高26回卒
今年も11月16日から21日に、銀座で個展を開きます。作品「人の人・診」

◆加藤 典之

高26回卒
東京冀北会から送られたメールを読み、今夏の静岡大会直前に野球部後援会に入会しました。後援会HPから試合結果を得る事ができ、喜んでいきます。早くコロナが収束し、入会時に頂いた後援会の帽子を被り、試合の観戦と応援ができることを楽しみにしています。

◆西郷 篤雄

高26回卒
再雇用終了後、近くの会社でパートタイム勤務をしております。元気な限り働きたいと考えています。(P・S) コロナ禍、今年も開催できず残念です。来年に期待しております。

◆下山 葉子

高26回卒
コロナ禍の中で同窓生の杉浦佳子さんの金メダルに励まされました。東京冀北会では非講演をお願いしたいです。(金メダルも見たいです)

◆中村 典子

高26回卒
後輩の山本篤さんと杉浦佳子さんの

パラリンピックでの大活躍に感動しました。これからも応援したいと思えます。

◆川村 敏幸

高27回卒
今年実家の整理も終わって、船橋市に落ち着くことになりました。世の中が落ち着いたらまた同級生の集まりにお誘い下さい。

◆樽松 正記

高28回卒
変わり有りません。いつもご苦労様です。

◆道下 敦義

高28回卒
大学を卒業して入社した会社に勤めて、早や40年以上が過ぎました。そろそろ次のことを考えて行動する時になりました。東京冀北会会員の方々のますますのご繁栄をお祈り致します。

◆岡田 昌宏

高30回卒
残念ながらワクチンは新型コロナウイルス対策の決定打にはなりません。現在ある治療法や提供されている医療体制も足りていない感じが否めない気がします。この先どの位引きこもり生活が続くのか？

トンネルの出口の光明は未だ見えていないようです。ワクチンで獲得した抗体価を上回る量のウイルス曝露があれば感染は免れません。皆様、ご自愛くださいませ。

◆竹島 規雄

高31回卒
幹事年の役員として色々お世話になりました。勤務先においてリモートワークが推奨されており、令和4年からは掛川の実家に戻り、週1程度の勤務になりました。父親の面倒を見ながら生活をしていきます。老老介護です。

◆竹村 聖之

高34回卒
事務局の皆様にはいつも感謝致しております。社会の状況は時とともに変わ

訃報

り、日々生活も変化する中、同窓会の絆はいつまでも続く安定感を感じます。移行行くものと不変なものバランスをとることができ、東京冀北会の存在に感謝致します。これからも末永く宜しくお願い致します。

◆鈴木泰子

高35回卒

この2年近くになるコロナ禍の中でも変わらず熱心に東京冀北会のためにご尽力ご献身をしてくださいます役員・事務局の皆様、心より感謝申し上げます。今夏の東京パラリンピック中は、掛西出身の選手の方々のご活躍がメーリングリストにて熱く語られましたことが何よりの励みであり、前向きな気持ちにさせてくれるものでした。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

◆嶽本あゆ美

高37回卒

『太平洋食堂』が「門真国際映画祭2021」で「最優秀作品賞」「大阪府知事賞」「他三賞を受賞しました。

11月3〜7日に劇団BDP「リアの食卓」(作・演出 嶽本あゆ美)が池袋あうるすぽっとにて上演の予定です。

◆水田直美

高39回卒

取り纏めいただき有難うございます。一昨年初めて同窓会に参加させて頂きました。同窓会の皆様が各界で活躍されていて、とても誇らしく思いました。私事になりますが、今年で勤続30年目を迎えることができました。素敵な上司、先輩、後輩に囲まれて、楽しい仕事ができていることに、感謝する毎日です。



◆三橋英夫

中38回卒

2021年7月18日逝去
(96歳で他界しました。家族)

◆兼子良一

中40回卒

2020年1月逝去
(父は昨年1月に亡くなりました。家族)

◆柴田敏夫

中41回5年卒

◆熊井鉄男

中42回卒

2021年4月28日逝去
(満90歳にて死去致しました。生前にはお世話になりました。家族)

◆田代忠俊

中44回卒

逝去

◆松本隆

中44回卒

2020年逝去
(生前の故人へのご厚情に感謝申し上げます。家族)

◆五嶋一彦

併1回卒

2020年12月16日逝去
(他界し、地元掛川に眠っております。娘様)

◆山内三郎

高2回卒

2021年4月21日逝去
(老衰により亡くなりました。奥様)

◆神谷潔

高8回卒

2015年逝去

◆橋本厚生

高8回卒

逝去

◆風間忠夫

高8回卒

2020年1月16日逝去
(皆様には長年お世話になりました。ご逝去しました。家族)

◆中村勝

高9回卒

2017年6月28日逝去

◆石亀晴康

高11回卒

2020年12月4日逝去
(お世話様になりました。娘様)

◆伊藤皓夫

高12回卒

2019年2月25日逝去
(急逝いたしました。娘様)

◆松井登

高13回卒

2020年12月31日逝去

◆渡辺八重

高14回卒

2021年1月23日逝去

◆水野春美

高14回卒

2020年6月23日逝去

◆岡田武子

高16回卒

2019年10月逝去

◆和田一恵

高20回卒

2020年11月11日逝去
(母は、去年の11月11日に71歳で亡くなりました。生前色々とお世話になりました。感謝申し上げます。娘様)

◆熊岡篤子

高28回卒

2021年7月17日逝去

◆桑田昌志

高31回卒

2018年逝去



<東京冀北会 役員>

会長	橋本和久(高19)
副会長	端詰正子(高24)
	野川雅江(高26)
	杉山文章(高29)
代表幹事	杉森正彦(高28)
事務局長	後藤利康(高27)
事務局員	萩原隆司(高28)
	野中俊文(高37)
	廣畑淳也(高55)
	黒田浩幸(高62)
会計監査	伊与部みち子(高21)
	内田金男(高22)

△2021年11月退任役員△

◆森田重敏(副会長)

高21回卒

私は2007年の会計監査を最初に副会長、代表幹事と東京冀北会役員を務めさせてもらいました。古希を過ぎ引き際かと思いついて今年で退任させていただきます。掛西のOBには能力、人格等で優れた方が沢山います。この間、皆さんと知り合い、数多くの楽しい出来事がありました。総会の遂行ではハラハラする場面や失敗もありましたが、良い思い出になりました。皆様に深く感謝申し上げます。

◆山村十吉(代表幹事)

高23回卒

東京冀北会への参加は、当番幹事年の時、同級生からの誘いがきっかけでした。それから10年、事務局員・事務局長4年、代表幹事2年、役員として活動に加わり、同窓会の運営と資金改善の為、案内の発送作業を役員で行ったり、会報広告掲載、会場変更等実施し、運営に支障がなくなった事は役員、会員の方々のご協力の賜物と感謝申し上げます。今後とも東京冀北会が益々の発展をしますよう心からお祈りしております。

首都圏関係の方の記事からの抜粋です。(連載5回分まで)

ぐるっと東日本

野球部の日々 今も底力に

ソフトバンク代表取締役 榎葉淳さん 1980年度卒

母校をたずねる

卒業後も気軽に相談できる友を一人でも多く作れたら、楽しい人生になると思います。



榎葉 淳さん (高33回) (ソフトバンク代表取締役副社長兼COO)

社会に出て辛いこと、投げ出したいことがあっても、野球部の練習を乗り越えたことを思い出し奮起する。チームで成し遂げる楽しさを知った。練習試合で工藤公康投手(福岡ソフトバンクホークス監督)と対戦し3打数1安打であった。朝と昼休みもグラウンドの整備、水を飲んではいけないうるさた練習で、完全なオフは夏の大会で負けた後の2~3日と正月2日まで、3日は法多山までの10キロの初詣ランニングがあった。数学の三宅正夫先生のスマートなロジカルな教え方、日本史の中野敬一先生の背景を含めての授業の進め方が好きであった。

ぐるっと東日本

入学直後 応援団と出会い

漫画家 所十三さん 1979年度卒

母校をたずねる

「劣等生も捨てたものじゃないぞ。勉強に行き詰まったら逃げちゃえ。何かできるよ」と伝えてあげたいですね。



所 十三 (岡田信幸) さん (高32回) (漫画家)

「名門!多古西応援団」、週刊少年マガジン「疾風伝説 特攻の拓」が大ヒットした。両親が掛川市連雀の「岡田書店」(「おかほん」と呼ばれていた)を営んでいた。入学した4月の応援練習では「目をつぶれ!目を開けるな、ぐらぐらするな」の号令、床をパンとたたく竹刀の音、しかし夏の静岡大会直前になると道化師並みに笑わせてくれた。似顔絵が得意で、体育祭の大きな旗に絵を描いた。動物好きで生物部に入り部長をやらされた。顧問で理科の太田幹晴先生、数学の土屋真博先生、美術の鈴木幾雄先生を思い出す。

P6・7の「横山八千代」さんは、当時ギター部顧問でした

シェーク・ザ・ワールド 原点

テノール歌手 榎葉昌寛さん 1984年度卒

母校をたずねる

「世界を揺るがそう」という思いで、世界の舞台上で活躍する若者が増えてほしい。



榎葉 昌寛さん (高37回) (オペラ・テノール歌手)

ミラノを拠点にオペラ、コンサート活動を20年以上続ける。「つま恋」での中島みゆき、チャゲ&飛鳥の影響を受ける。高校時代はギター部でロックに傾倒し、高3の文化祭での弾き語りやオペラ歌手への原点であり、浪人時代にみた映画「椿姫」がオペラ歌手を目指すきっかけとなる。声楽家の先輩加納堅志さん(高19)らのレッスンを受け東京芸大に合格し29才でイタリア国立ミラノ・ベルディ音楽院に留学する。逆境の時に心に浮かんだのは高校の文化祭で観客が熱狂してくれる快感であった。秋の天皇賞、プロ野球日本シリーズで国歌を独唱した。

ぐるっと東日本

夢育んでくれた甲子園

フリーアナウンサー 高須沙知子さん 1995年度卒

母校をたずねる

自分の心を声に反映する。心から考えて取材することを考えている。いろいろな経験をすることが大事。



高須 沙知子さん (高48回) (元NHK静岡放送局キャスター)

09年3月27日掛川の甲子園での初戦を観戦し、同日卒業する担当番組でニュースとして伝えました。93年夏、94年春の2回甲子園に応援に行きました。鬼の応援練習を重ねると愛校心が出て全校応援をしたことは「あれが青春だった」という感じがします。2年時に掛川城天守閣が復元されHRの時間に行ったこともあり、城のふもとに広がるような雰囲気校風でよかったです。3年の文化祭で世界史上の人物のファッションショーを企画、司会を担当し、進路相談で鈴木智子先生が「アナウンサーなんていいんじゃない」と言って下さいました。

連載第1回目の「ゲド戦記」翻訳者「清水真砂子」さん(高12)の文中で登場されている英語の「谷誠一先生」は、前回32号会報の寄稿者、秋野文子さん(高14)のお父様であるとのことご連絡をいただきました。

令和2年度東京冀北会収支報告

令和2年4月1日～令和3年3月31日

(収入)前年度繰越金	1,015,062円
年会費 (215名)	645,000円
会報掲載広告費収入(5件)	45,000円
預金利息	1円
収入合計 (A)	1,705,063円

(支出)印刷費(案内状、会報)	85,380円
総会通知郵送費(1,680通)	141,120円
総会返信後納費 ¹	10,062円
郵送料(会報・幹事会宛通知等)	44,490円
通信費(HPプロバイダー更新料)	11,580円
事務費・振込手数料	43,571円
打合せ時飲み物代等	13,062円
同窓会名簿購入費	4,703円
支出合計 (B)	353,968円

(収支残高)(A - B) (次年度繰越金) = 1,351,095円

【資金管理】郵便貯金	1,185,000円
みずほ銀行	160,438円
現金	5,657円

令和3年9月15日

会計監査 伊与部みち子(高21回卒)
同 内田金男(高22回卒)

事務局より

長年に亘り、東京冀北会の役員をされていた森田重敏さん(高21)、山村十吉さん(高23)が退任されます。お二人のご尽力に深く感謝いたします。ありがとうございました。

新しく、代表幹事に杉森正彦さん(高28)、副会長に杉山文章さん(高29)が就任します。



2021/9/8
案内状の発送作業で集まりました。
(山村さんの事務所会議室)

校歌

作詞 藤井金吾
作曲 嶋福寿

一 岩根ごごしき天守台
その麓にぞわが校は
基定めて逆川の
栄え行くこそ榮しけれ

二 雨降り嵐すさぶとも
指してや行かむ小笠山
希望の懸を射るまでは
めげず撓まず崩折れず

六 ヤがてまことの功なし
誉れは栄ゆる百錦
飾りて花の色そへよ
大和島根の山桜

第一応援歌

作詞・作曲 不詳

一 天守の森に草萌えて
志ある若人の
胸の血潮の燃ゆる時
咲くや万朶の花ごろも

二 青苔敷ける逆川の
青葉端月に風吹けば
熱血ほほにみなぎりて
見よや勇士のまなざしを

三 立てよ我等のますらをよ
ふるへ我等の同胞よ
七百望みは胸に燃え
衷心至誠の血はおどる

【東京冀北会 Facebook】

<https://www.facebook.com/tokyo.kihokukai>

【メーリングリスト】google グループ

登録問合先：東京冀北会 事務局
tokyo.kihokukai@gmail.com

【東京冀北会ホームページ】<http://www.tokyo-kihokukai.com/>

《編集後記》副会長 端詰正子(高24)

コロナ5波は急減し、落ち着いた日々が戻って来そうです。今年も同窓会は開催できませんでしたが、「会報」は寄稿、投稿して下さった方々はじめ皆様の御支援・御協力を頂き、作ることができました。心から感謝申し上げます。

8月の「バラリンピック」での杉浦佳子さんの「最年少記録は二度と作れないけど、最年長記録はまた作れる」、山本篤さんの「自己ベストが出たということは、まだ伸びるということ。まだやれることはあるんじゃないか」と、同窓生の言葉だと思ふと殊更に感動しました。

今年度は学年幹事の元野球部の竹島さん(高31)のお陰で野球部出身の方のコメントを複数いただき、毎日新聞の榛葉さんの記事も併せて野球部の方の大変さを今頃になって知りました。

また本を出版されている方も複数いらして、兵藤哲夫さんの「動物病院119番」は「動物愛護の思いが多才なパーソンナリティを通して興味深く伝わってきます。奈波はるかさんの「天空の城」は「大河ドラマ」で観たくなります。堀川さんの本も健康を考えさせてくれます。

鈴木さん、山下さんを通して、「宇宙」「飛行機」と広大な空間を想像でき、「宇宙ターナー」@fukudasun)には「いいね」して、後藤さんの「時事川柳」、小林さんの「風姿花伝」、梅澤さんの「和太鼓」も興味深いです。岡田さんの「福島復興」のお手伝いには頭が下がりますし、松浦さん、黒田さん達若い世代の仕事も充実し、楽しそうな様子に応援したくなります。

はがきのメッセージも共感したり感心したりして独り言で返事を呟きながら、今年も編集者として楽しく貴重な経験をさせていただきました。

東京きほく会

検索



発行日 令和3年11月
発行者 橋本和久
発行 東京冀北会